

報道関係者各位

クラウド人事労務ソフト「SmartHR」が、人事システム主導型プロビジョニング 実現のため、「Okta Integration Network」との SCIM 連携に対応

Okta Japan 株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：渡邊 崇）は、株式会社 SmartHR（本社：東京都港区、代表取締役 CEO：芹澤 雅人）が運営するクラウド人事労務ソフト「SmartHR（スマートエイチアール）」が、従業員情報にもとづくアプリケーションのプロビジョニング（注1）自動化を実現するため、Okta の 7,300 以上の事前連携アプリプレート群「[Okta Integration Network](#)」（OIN）との SCIM（注2）連携に対応したことを発表します。

企業が業務で利用するクラウド型アプリケーション数が急速に増えています。Okta が毎年お客様を対象に実施している最新調査（注3）によると、Okta のお客様 1 社あたりの平均アプリ数は 89 個ですが、4 年以上 Okta を使用しているお客様 1 社あたりの平均アプリ数は 210 個になります。こうした背景から、アプリケーション利用のためのユーザーアカウントを従業員に割り当てたり、退職や部署異動などで割り当てたアカウントを解除したりする作業の負荷が IT 管理者の時間を奪っています。また、退職者のアカウント解除漏れによる情報漏洩のリスクも増大しています。

今回、SmartHR が SCIM 連携に対応したことにより、アイデンティティ管理・認証基盤プラットフォーム「Okta Identity Cloud」を使用する SmartHR のお客様は、SmartHR の従業員情報に基づいてアプリケーションのプロビジョニング自動化を実現できます。従業員の人事情報に基づいて、従業員が必要なアプリケーションを自動的に割り当てたり、従業員退職の際には人事部門が SmartHR の情報を変更すれば、IT 部門に依頼しなくても自動的に下流にある全てのアプリケーションのアカウントを解除できます。これにより、IT 管理者の負荷を大幅に削減することができ、アカウントの解除漏れによる情報漏洩のセキュリティリスクを低減できます。

株式会社 SmartHR の代表取締役 CEO、芹澤 雅人 氏は、次のように述べています。「Okta 様とのシステム連携が実現でき、大変嬉しく思います。ユーザーアカウントの管理は、従業員数と利用サービス数が増えれば増えるほ

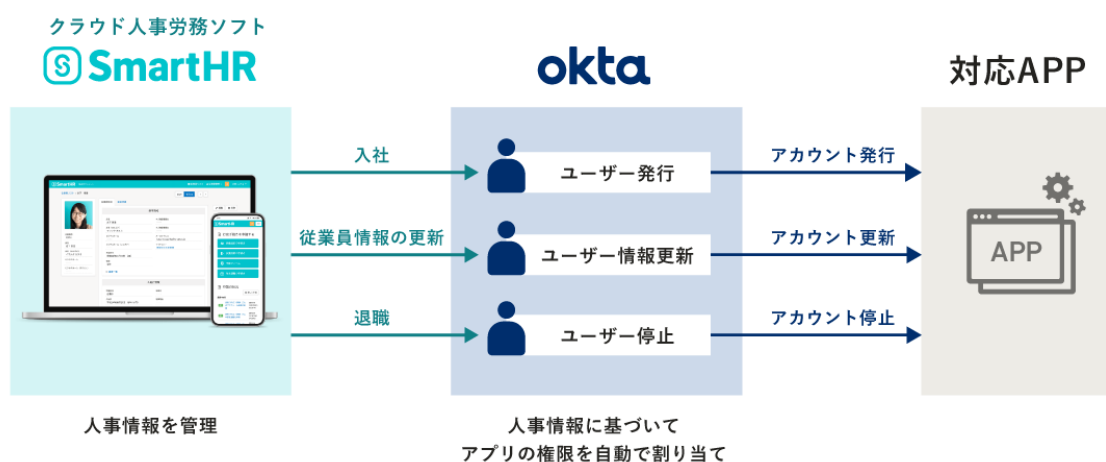
Press Release



ど煩雑になり、セキュリティリスクも大きくなります。今回の SCIM 連携により、手間とリスクから解放されることで、より多くのサービス導入を可能とし、DX 推進の一助となることを期待しております」

Okta Japan 株式会社の代表取締役社長、渡邊 崇は、次のように述べています。「SmartHR 様が、国内開発の人事システムとして初めて OIN との SCIM 連携に対応したことで、ユーザーアカウントのライフサイクル管理プロセスにおけるセキュリティとユーザーエクスペリエンスが格段に向上します。この SCIM 連携による自動化のメリットの理解がさらに深まり、OIN 登録アプリケーションの SCIM 連携が増えていくことを心から期待しております。」

人事システム主導によるプロビジョニング



ウェビナーのご紹介

「SmartHR と Okta で実現する人事 DX～従業員のライフサイクル管理、新時代へ～」

開催日時：2022 年 3 月 24 日（木） 11:00 - 12:00

形式：オンライン

参加：無料（事前登録制）

お申し込み：<https://smarthr.jp/event/33204>

クラウド人事労務ソフト「SmartHR」について (<https://smarthr.jp/>)

SmartHR は、労務管理クラウド 4 年連続シェア No.1(※)のクラウド人事労務ソフトです。

Press Release



雇用契約や入社手続き、年末調整などの多様な労務手続きをペーパーレス化し、データとして蓄積。また、勤怠管理システムや給与計算システム等との連携により、様々なデータの一元管理も可能に。さらに、SmartHR に溜まった従業員データを活用した「人事評価」「従業員サーベイ」などの人材マネジメント機能により、組織の活性化や組織変革を推進。すべての人が働きやすい環境づくりに貢献します。

SmartHR は、煩雑で時間のかかる人事・労務業務から経営者、人事・労務担当者、従業員を解放し、企業の生産性向上を後押しします。

※：デロイト トーマツ ミック経済研究所調べ『HRTech クラウド市場の実態と展望 2021 年度』

注 1: プロビジョニングには、業務などで利用するアプリケーションに対するアクセス権の作成、更新、削除が含まれます。従業員や社外ユーザーの入社、異動、退職などともなうユーザーアイデンティティのライフサイクル管理の一部をなす概念です。プロビジョニングおよびライフサイクル管理の自動化を導入すれば、IT 管理者の貴重な時間を節約し、本来なくてもよい不満やセキュリティリスクを軽減できます。

注 2: SCIM は、System for Cross-domain Identity Management の略称で、複数のクラウドサービスやシステム間でアイデンティティ情報のやり取りを自動化するための標準規格

注 3: Okta では、毎年、世界中の Okta のお客様が使用した業務アプリの利用動向に関する年次調査「Businesses at Work」を実施しています。最新調査「Businesses at Work 2022」では、Okta の 14,000 社以上のお客様が活用している、7,300 以上のアプリケーションと連携する「Okta Integration Network」(OIN)の匿名化されたデータに基づいて、Okta 経由でどのような業務アプリが使われているのかを分析。2015 年から毎年実施しており、今回が 8 回目となります。

<https://www.okta.com/sites/default/files/2022-01/Businesses-at-Work-2022-Annual-Report.pdf>

Okta について

Okta は、すべての人のアイデンティティとアクセスを安全に管理するベンダーニュートラルなサービスプロバイダーです。Okta が提供するプラットフォーム「Okta Identity Cloud」により、クラウド、オンプレミスを問わず、適切な人に適切なテクノロジーを適切なタイミングで安全に利用できるようにします。7,300 以上のアプリケーションとの事前連携が完了している「Okta Integration Network」を活用して、あらゆる人や組織にシンプルかつ安全なアクセスを提供し、お客様の潜在能力を最大限発揮できるように支援します。JetBlue、Nordstrom、Siemens、Slack、武田薬品、Teach for America、Twilio を含む 14,000 以上のお客様が Okta を活用して、職場や顧客のアイデンティティを保護しています。

Press Release



<https://www.okta.com/jp/>